

1．あらさわ公園温泉施設の計画について（下朝比奈）

あらさわ公園は市民のいこいの場所として年々発展している。来場者は「良い公園ですね」と、褒めて帰っていく。そこで温泉施設が出来れば、ますます市のシンボルになり、活性化につながると思う。

A 「あらさわふる里公園」は、早くも開設7年を経過し、年間来場者が18万人を越え、総売り上げも初めて1億円を突破したことは、社長をはじめ役員各位と地元のみなさまの「あらさわふる里公園」を愛し、大切に思う心が育ててくれた結果である。心から感謝申しあげる。駐車場が狭く不足していることについては来年度拡張する。

ここだけでなくサンホテルの跡地、「ぶるる」などへ「温泉施設が何とかならないか」という声は耳にする。ただ温泉施設というと、それだけには止まらず、休憩施設や宿泊施設といったことまで考慮すべきだろう。したがって、現段階では早急に進めることは難しい。将来に向けて研究検討が必要だ。

2．市職員の休憩時間の短縮について（下朝比奈）

市財政も年々厳しくなっていくと思われる。必要、不要の区別、無駄の排除など、少しでも負担・無駄をなくす努力が求められる時がきた。そこで市職員の休憩時間を短縮して、より能率を上げて、市民サービス向上の手本をみせてほしい。

A 市では、行政改革を進める上で行政改革大綱・集中改革プランを策定し、自立した地域社会の実現のため、徹底した経費の削減、事業の見直し、事務の効率化などに計画的に取り組んでいる。行政改革は職員、市民共に痛みを伴うこともあるが理解の上協力を願いたい。

職員の休憩時間については、労働基準法の規定により6時間を超えて勤務する場合は45分以上の休憩時間、8時間を超えて勤務する場合は1時間以上の休憩時間を与えなければならないとされている。これは遵守しなければならない。施設も職員が休憩できる部屋というものはなく、食事が済んだ後は、自分の席で来客対応や電話対応を行っている。5時以降についても、毎週火曜日には「火曜ナイト」ということで、夜8時まで、市民課・税務課・水道課などの窓口部門は開いており、職員には時間外手当を支給することなく、時差出勤として頑張っている。今後も市民の期待に応える行政サービスに努める。

市政4年目を迎え、一丸となって市民のためのまちづくりに一層つとめてほしい。

3．静鉄循環バスの運行について（朝比奈原）

現在、原地区の子どもたちの交通手段として、静鉄の循環バスが運行しているが、赤字のため廃止するとの話を聞く。決まっているのか。時期はいつなのか。廃止となれば子どもたちの通学は親が送迎するのか。市としての対策は。

A 「浜岡循環線」は浜岡北小学校の生徒・浜岡中学校の生徒の輸送が主なものだ。本年4月にしずてつジャストラインから浜岡循環線をはじめ、いくつかの路線について退出の申し出があった。今まで浜岡循環線は、赤字分を補てんしながら、しずてつジャストラインに運行してもらっていた。また、本年4月から「特急静岡御前崎線」が相良営業所で全て乗換えとなり、新たに「相良浜岡線」「相良御前崎線」を運行するなど、しずてつジャストラインの路線も変わってきた。

このような状況の中で御前崎市全体の公共交通のあり方を検討するために、6月に「御前崎市地域公共交通会議」を設置し、運輸支局・県交通政策担当・土木事務所・菊川警察署など関係機関、またしずてつジャストライン・タクシー関係者・市民の代表者などによる16人の委員により、今後の御前崎市の交通体系を検討している。

生活交通を確保するために、今までどおり赤字補てんする方法、市の自主運行バスを走らせる方法、市が他の業者に委託する方法、全く違う輸送を考えるなど様々な手段がある。これらも含めて先の地域公共交通会議で協議し、今年中には方向性を示す予定だ。

浜岡循環線については、学童輸送が主な目的のため、たとえ、しずてつジャストラインが退出するとしても、廃止することはできない。今までどおり赤字補てんをすとか、スクールバスに切り替えるとか、何らかの方法で学童輸送を確保する。

地域によって行政サービスに格差があってはならない。等しいサービスが受けられるよう願っている。

4．荒廃農地再生事業について（下朝比奈）

荒廃農地は全国的に増加し、御前崎市においても例外ではない。農業従事者の高齢化、後継者不足が農地の放棄や耕作の断念に繋がっている。現在御前崎市だけでも250ヘクタールの荒廃農地があると聞いた。幸い御前崎市は荒廃農地再生事業を立ち上げ、池新田地区150号線北側に130アールの荒廃農地が再生されたことは、大変に意義のあることだ。そこで

この事業は今後どのように進めていくのか。

朝比奈、新野、比木地区の茶園の荒廃も目立っているが、これも対象とするのか。

A 荒廃農地再生対策事業については、昨年の市政懇談会でも関連する質問が7件も出され、市民の皆様の関心が高い。特に高齢化が進んでいる中で荒廃農地を何とかしたいという若手メンバーで構成されている「アグリサポート御前崎」には、総合的にサポートをいただき感謝している。これからの御前崎市農業の担い手として大いに期待している。

昨年度から取り組んでいる「菜の花定着実証モデル事業」や「繁殖和牛放牧事業」に加え、今話の出た本年度取り組み中の「130アールの再生農地によるモデル事業」などを、進めているがいずれにしても農家の経営が成り立つものでなければ継続は期待できない。適地適作の栽培作目の確立と、市内外を問わず加工、流通組織との連携が鍵を握る。

茶園についても荒廃していくことは非常に残念だ。乗用茶刈り機が入れない、段差があるなど条件の悪い茶園はどうしても荒廃の心配がある。

現在、荒廃農地再生対策事業の一環で、県、市、農業委員会、JA、その他関係団体などで構成する「荒廃農地再生対策協議会」を立ち上げる準備をしている。全市内それぞれ地域ごとの実情を把握し、地域の抱える課題を解決していく。

荒廃する前に農地を何とかできるような方策も考えてもらいたい。

A 地域格差の話も出たが、確かに都市計画区域の整備を進めると同時に、農業地域の農地についてもしっかりとした対策を講じなければならないと思っている。来年度、再来年度と予算付けをして対応したい。

5. ゴミ0運動について(上朝比奈)

5月27日に行った「ゴミ0運動」で、処理場が1ヶ所のため、当日は処理場付近の道路が渋滞した。できれば浜岡地区と御前崎地区で2回に分けて行うことができないか。

A 「ゴミ0運動」は統一美化キャンペーンとして5月30日に一番近い日曜日に、みなさまに実施をお願いしている事業だ。

今年は、5月27日が統一日だったが、市の行事、町内会の予定の関係上6月3日でも構わないと両日ともに搬入できるよう対応した。

したがって今年は2回実施した結果となったが、それでも渋滞したことは5月27日は一般搬入受付日で、一般車両と「ゴミ0運動」の車両で渋滞したものと思われる。

今後は一般車両との分離調整や搬入時間の調整など、環境保全センターや関係者と相談し、よりよい対応を考えたい。

6. 新野、朝比奈幼稚園の合併新築について(上朝比奈)

新野、朝比奈幼稚園が合併して朝比奈幼稚園の所に新築し、20年度完成と聞いておりますが、工事中は、園児はどこに通園するのか。もし新野に通園する場合、その通園方法はどうか。また、幼稚園の名前は決まっているのか。

A 新野幼稚園、朝比奈幼稚園の統合は、合併前の平成13年から統合する施設の候補地を探した。当時は幼保一元化で検討し、北小周辺ではどうかという話があったが、なかなか地形的に難しく実現には至らなかった。合併後、急激に新野幼稚園の園児数が減少し、集団的な教育を行うのに支障がでる状況となったため、急遽、朝比奈幼稚園を北小学校区の園児を一同に就園させる幼稚園とするよう検討を再開した。

総合計画によると、本年度、設計業務を実施し平成20年度に建設工事に着手する予定となっており、本年度当初予算に委託料を計上してある。したがって本年度設計に入り、施設は平成20年度に施工し、平成21年3月の完成を予定している。

施工にあたっては、仮園舎を設けるとたいへん費用がかかり、設置場所の問題も生じる。そのため新野幼稚園へ統合した状態を通ってもらうこととなるだろう。なお、その間の通園は集合場所を決めて、バス通園となる。

地元で愛される幼稚園となるよう計画していくので協力願いたい。

幼稚園の園歌も考えてもらおうと、より親しみやすい幼稚園になると思う。

7. 中学校の環境について（朝比奈原）

現在、浜岡中学校がある場所は車の往来が激しいことなどで通学の安全面が心配である。学校を取りまく都市化の中でこれからの中学校の環境面をどう考える。中学校を移転するような考えがあるか。

A 中学校をとりまく環境は、20 数年前には近くに酒屋があり、たばこの自動販売機があり、喫茶店もあり、おでんなどを売っている食堂もあった。環境面から言えば逆に良くなったと認識している。道路なども拡幅され、交通量が増えた反面、安全面は向上していると感じている。

児童・生徒の通学途上の安全管理は、学校ごと交通安全教室を開くなど、PTA会員、交通指導隊の方々などの協力を得ながら、様々な取り組みを行っている。

浜岡中学校でも、年1回、菊川警察署の交通指導員を講師として交通教室を開催している。その中で、交通ルールの遵守ならびに交通マナーの向上に向けての意識高揚を図っている。さらに危険箇所のチェック、全職員による街頭での下校指導など日ごろから生徒の登下校における安全に関する配慮ある取り組みを積極的に行っている。

確かに浜岡中学校付近では、朝夕の出勤、帰宅時間帯は、交通量が多い。浜岡中学校では、最も混雑が予想される「一斉下校」の際は、必ず全職員が校外で下校指導を行う体制をとっている。とはいえ、車社会の中で、道路、とりわけ歩道、横断歩道の整備は歩行者である児童生徒、自転車通学の生徒、さらには高齢者を守るうえで欠かせない。一方で「自分の命は自分で守る」という意識を向上させることも大事だ。

そこで、本年度文部科学省からの委託により、浜岡北小学校区で「安心・安全マップ」を電子化し、その情報を多くの公共施設などで共有することにより、安全な地域づくりができないかという調査・研究事業を予定している。

さらに、現在予定している「マナーモデル運動」により、児童・生徒を含めた市民の「交通マナー向上」の意識啓発も積極的に働きかけていきたい。

こうしたことにより、浜岡地区の中心地にある浜岡中学校の生徒の安全を守るとともに、中心地である立地条件のよさをプラスに生かす教育活動を目指していくよう、教育委員会としても学校当局に協力していく。

浜岡中学校の移転については、少子化の影響する生徒数の見込み、施設設備の過不足などを含めて研究していく必要がある。

8. 精神障害者のための施設と病院外来の設置（上朝比奈）

私がかかわる精神的な障害を持った方の施設の中に54人のうち御前崎からは6人。他の市に比べて非常に少ない。現在は100人に1人が精神疾患といわれているが、なぜ少ないかというと近くに施設がないからだ。障害者自立支援法で知的、身体、精神の障害者が一緒の法律となったが精神障害は置き去りにされている感じを受ける。この地域に精神的障害を持った人たちのいこ

いの場を作ってほしい。

近くの榛原病院、島田、菊川市立病院には精神科の外来があるが、地域では老人が老人を介護している状況で他市の病院に車で通うのは無理だ。認知症が進む前に軽度の段階で診てもらえる精神科の外来を病院に設置してほしい。

A 「近くに施設をほしい」ことについては福祉課を中心に考えている。近隣の社会福祉法人の状況をみながら研究はしている。

入院を伴うことが多いため外来だけで診るのは難しい。やはり精神科単独の病院が多い。外来は必要であると思うが人手がいるし、看護師などの問題もあり現状で病院に精神科の入院施設は難しい。認知症については検討するが、この地域は昔からの知り合いも多く隣近所のコミュニティーケアもしっかりしている。深刻な状況とまではいえないと思う。

9．地域振興につながる道路整備を（上朝比奈）

都市計画区域外で過疎化が進む市の北部地域にある朝比奈地区。本年度予算計上された西部線から頭山をつなぐ路線を、地域の振興のためにも牧之原市の高規格道路へ接続してほしい。

A 西部線の延長については地盤が悪く、橋梁などで多額の予算を要する。当面の予定は、頭山に接続するまでの予算となっている。今後スズキ自動車の牧之原工場の拡張に伴う物流の動向や「富士山静岡空港」と高規格道路へのアクセス状況などを見極めたうえで、今後土木事務所、牧之原市とも慎重に協議していきたい。